

バイタルリンク運用好事例紹介（その8）

～タグの活用事例（転倒・行方不明）～

●タグ機能の運用事例

現在、連絡帳で選べるタグは16種類あります。今回は【転倒】と【行方不明】のタグ利用事例についてご紹介します。

【既存のタグ】

ACP
検体検査
診療画像
臨床写真
調剤情報
ケアプラン情報
診療情報提供書
●**転倒**
●**行方不明**
発作

【2/24より導入したタグ】

○**医療トラブル**
⇒医療機器にまつわるトラブル等
○**合併症・急性増悪発症**
⇒合併症や急性増悪が発症した際の情報
○**要注意情報**
⇒患者さんやご家族が嫌がるような処置や事象等注意事項
○**歯科・口腔・嚥下情報**
⇒歯科や口腔嚥下に関する情報
○**身体・高次機能**
○**栄養関連情報**

《転倒事例》

●【事例】74歳女性、施設入所中の認知症の方（転倒に関する報告20回）



看護師

件名：転倒

居室内物音がして訪室すると右側臥位に転倒している。右目を押さえ「またぶつけた」と話される。右肩の痛みもあるが特変はみられていない。この所ふらつき強く突然倒れること多くなるまた休みたいのに休まねば廊下やフロアにて横になること多くみられる。



介護福祉士

件名：転倒

3月16日 18時頃
廊下にて見守り中 右に一回転するように転倒 特変なし



看護師

件名：転倒

本日 9:05 物音がして訪室すると部屋の隅にもたれかかるようしゃがみこんでいた。家具と右側頭部が接触しており頭部をぶつけたようである。しばらくして歩行され、バイタルサイン含め、特変なしです。



看護師

件名：転倒

8:10分に物音で訪室すると右側臥位に横たわっていた。右側頭部に3×3cmの腫脹あり。その後特変はありません。

⋮



医師

件名：右側臥位や後方への転倒が多い 0605

右に回転するとか、後頭部を打つ、という記載が多いように思います。その後も、右側臥位で倒れているとか、右臀部を打っている、後頭部を打っている、という記録が繰り返されています。もしこの方が残念ながら骨折するとすると、右大腿骨頸部骨折ということになりそうです。なんらか、右へひっくり返る理由を考えたいところだと思いました。座る位置や介助する場合は右側からと心がけて下さい。

《行方不明事例》

●【事例】 87歳男性、アルツハイマー型認知症の方



医師

件名：行方不明

「また警察。先週、朝9時に出た。カゼ気味。3時間経って、警察に電話した。いままでは（警察への連絡は）夕方だったけど…。水道局のあたり。『迷子の老人がいる』って。14時頃、戻ってきた」
「全部で7回、水道局あたりは2回。新聞配達で行ってたからかな…」
「GPSももたずに、出かけた…」



医師

件名：行方不明

息子）19時半から警察に行くとか言って出かけて4時間半後に馬橋駅の近くで警察に見つけられて連絡がきた。GPSは持って行かなかった。足の指につける小さなチップみたいなのは使えないか？普段買い物をするときは自分がお使いを頼んでいて、10回に1回くらい戻ってこれない。



看護師

件名：訪問看護報告

先週の朝に、デイサービスのカバンを持って一人で出かけ（息子さんが7時半ごろ起きた時には本人不在）、学校の前で転倒か何かあり通行人が救急車要請。救急隊が本人のカバンから連絡先を見つけ息子に電話（8:50頃）、そのまま救急搬送はせずに自宅に送ってもらった、ということがありました。

●【事例】 79歳女性、高血圧症の方



医師

件名：行方不明

昨日猫を探しにカートを持って出掛けたら迷子になったとのこと。自宅の電話番号は覚えていたもの再度同じことが起こる可能性がある。娘の携帯番号を含め連絡先が分かるような紙をカートに取り付けられないか？



医師

件名：Re:行方不明

元々あまりにも「覚えていない」ことが激しかったため、認知症を疑いましたが長谷川式スケールでは満点近く、それを契機にADHDの診断に至っています。
発達障害のバリエーションとして、空間認知機能障害（要するに極度の方向音痴）の合併もありうるのですが、対応としては認知症に準じて考えることが必要かもしれませんね。また、再度の認知機能検査や、ADHDの薬物治療の適否についても再考します。

推奨する利用方法

患者に関わる様々な職種が把握しえたアクシデント等に関するエピソードを【場所】・【状況】・【時間帯】・【考えられる誘因】・【深刻さ】等を考慮しながらバイタルリンクの連絡帳へ情報を登録し、タグを付けてください。



連絡帳にタグと共に登録され、積み重ねたエピソードを“まとめ機能”で表示することにより、原因の究明や予防対策立案に役立てることができる可能性があります。